<table>
<tr><td>授業名</td><td colspan="3">地域課題 PBL_A（大規模アクティブーラング型）</td></tr>
<tr><td>英文授業名
※大学によっては英文成績通知書の記載のために必要となりますので，必ずご記入ください。</td><td colspan="3">Regional Problem-Based Learning（Couse A）</td></tr>
<tr><td>開講期間</td><td colspan="3">2026 年度前期</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">2 単位</td></tr>
<tr><td>授業提供大学</td><td colspan="3">長野大学</td></tr>
<tr><td>主担当教員氏名</td><td colspan="3">宮本秀樹</td></tr>
<tr><td>副担当教員氏名</td><td colspan="3">鈴木由美子　飯塚秀彦</td></tr>
<tr><td rowspan="4">授業のねらい
※該当しないもの行は削除してください。

※授業で得られる地域活性化人材の能力と対応するように本授業の達成目標を設定してください。

※「～することができるようになる」「～することができる」という形での目標設定を推奨します。</td><td>授業で得られる
地域活性化人材の能力</td><td>⇔</td><td>本授業の達成目標</td></tr>
<tr><td>α　信州の活性化に係る知識・技能</td><td>⇔</td><td></td></tr>
<tr><td>β　信州の活性化に係る課題を発見・解決するための思考力・判断力・表現力</td><td>⇔</td><td>・地域課題を自ら設定し、調査・分析を通じてその構造的背景を理解できるようになる。
・自身の専門分野の知識・技能を活用して、課題解決の方向性を企画・提案できるようになる。</td></tr>
<tr><td>γ　信州の活性化に係る課題を主体的・対話的に発見・解決しようとする態度</td><td>⇔</td><td>・他者との対話を通じて、多様な視点を統合しながら協働的にプロジェクトを遂行できるようになる。</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="3">本授業は、地域社会が抱える具体的な課題を題材に、学生が自ら「課題設定」から「解決策の提案」までを行う PBL（Problem-Based Learning）形式の科目である。
学生は、連携先の自治体・企業・NPO 等から提供されるテーマに基づき、調査・対話・試行・提案のプロセスを実践する。教室での学習に留まらず、現場での活動を通じて多様な主体と協働し、地域活性化に資する実践的な能力（課題発見力・解決力・対話力）を習得することを目的とする。
本科目は共通の全体構造に基づき設計されているが、コースごとにアプローチ手法（モノづくり、フィールドワーク、ワークショップ等）が異なる。
本講座は、【 Ａコース（大規模アクティブラーニング型） 】として実施する。</td></tr>
<tr><td>授業の計画</td><td colspan="3">本授業は、学生が主体となり、自治体・企業・NPO 等の「受入主体」と連携して地域課題の解決に挑む実践型プログラムである。
学習プロセスは、以下の 5 段階で構成される。
①インプット：地域の現状や背景を深く理解し、情報を収集する。
②課題設定：現状分析に基づき、解決すべき本質的な問題を特定する。
③ワーク：課題解決に向けた具体的な提案を練り上げ、実践と検証を行う。
④発表：成果を可視化し、プレゼンテーションを行う。
⑤評価：活動プロセスと成果を振り返る（ポートフォリオの記入）。
各コース（テーマ）の特性に応じた柔軟な期間・手法を用いつつ、学内外で実施する。最終成果は最終回までに報告発表し、加えて全コース合同の発表会にて共有し、多様な視点からの学びを深める。
本クラスは、地域課題や起業家精神養成等を念頭にした動画コンテンツを教材にして、アクティブラーニングの手法を用いる。また、反転授業や Google Form 等</td></tr>
</table>

	を用いた振り返りの仕組みを導入する。最終的には、「集合としての生活課題を俯瞰できる力(生活課題群をマスとして見るデザイン力)」を身に付けたり、教養としての PBL の立ち位置を通じて、主体的に汎化(応用)に資する思考・判断・表現する力を養う。	
	第 1 回	**オリエンテーション/全体①** 教育体制、SPARC 全体に関する基礎的理解、シラバスの概要、 動画コンテンツ、各自が取り組み課題、成績評価等について共有する。
	第 2 回	**「問い」の立て方/その 1　～提示された課題から「問い」の手前まで/GW①**　※GW=グループワーク ・新聞記事を用いて、「質問」と「問い」にかかる学びを行う。
	第 3 回	**「問い」の立て方/その 2　～課題設定から「問い」のあぶり出しへ～／GW②** ・新聞記事を用いて、「問い」へのアクセスを行う ・各自が取り組みたい動画コンテンツの希望を提出する。
	第 4 回	**文理横断的な学び～データの見方・取り扱いについて～／全体②** 「地域経済分析システム(RESAS:リーサス)」出前講座 (関東経済産業局　地域経済部　地域振興課)
	第 5 回	**本来グループとしてのスタート/GW③** ・各自が取り組む動画コンテンツの決定とグループの決定。 ・自己紹介。なぜ、このコンテンツに興味・関心を持ったのかなどにかかる共有化
	第 6 回	**グループとしての取り組む「問い」を決定する/GW④** 現状把握、疑問点や課題、問題点の洗い出しを通じて、 問いを決定していく。
	第 7 回	**「問い」の周辺をコンクリートしていく/GW⑤** 問いの確定、問いに関連する調べ学習を行う。
	第 8 回	**中間報告会の準備/GW⑥** グループ間の進捗状況を相互確認するために、問いと現状に焦点を当てた(アクションプランのイメージを含む)報告内容を作成していく。
	第 9 回	**中間報告会の実施/全体③** ・PPT による全体プレゼンテーションを通じて、問いとその周辺(アクションプランのイメージを含む)に関する情報共有を行う ・動画コンテンツ作成者の招待
	第 10 回	**中間報告会の振り返りとアクションプラン作成/GW⑦】** ・中間報告会の振り返りのための意見交換を行う。 ・グループで取り組む、問い(解決すべき課題)に対する具体的な対応となるアクションプラン作成に取り掛かる。
	第 11 回	**アクションプラン作成/GW⑧** ・グループで取り組む、問い(解決すべき課題)に対する具体的な対応となるアクションプラン作成を継続する。 ・成果報告会準備に取り掛かる
	第 12 回	**成果報告会の準備/GW⑨** 問いの設定・確定、関連する調べ学習の積み上げ、問いに対するアクションプラン作成にかかる一連の学修内容・課程について成果報告という一つの形にしていく。
	第 13 回	**成果報告の個別実施** **～ようこそ地域課題パビリオンへ(アリの目の導入)～/GW⑩** ・発表する組と発表を聞く組に分かれて、パネルを用いた対面発表と質疑応答の双方向の学びを行う。 ・動画コンテンツ作成者の招待 ・全体発表会(クロージング/まとめ)への準備
	第 14 回	**成果報告の全体実施** **～地域課題という森を「鳥の目」で眺めてみよう～/全体④**

		・動画コンテンツ・大分類(働く、若者、空間、技術)にかかる【項番1～10】の代表グループの学修成果を通じて、地域課題を高みの位置から確認する ・PPT による全体プレゼンテーションを通じて、地域課題という森を総合的・包括的に見ていく。 ・動画コンテンツ作成者の招待
	第 15 回	**総括と全体の振り返り/ GW⑪、全体⑤** ・【成長の理念形】として設定した、「個人の成長(地域活性化人材とは。人への視点)「グループとしての成長(持続可能な地域社会とは。環境や社会への視点)」「全体の成長」の観点からの振り返りを行う。 ・15 回の授業全体を通じて、授業の目的や建付け、文理横断型の学び、アントプレナーシップ(起業家精神養成)等の側面からみての振り返りを行う。
	発表・評価③　合同成果発表会 相互評価の場として開催し、他プロジェクトや関係者との合同成果発表を行い、学びを共有するとともに地域や社会への発信を行う（後期に開催予定 。参加は任意）	
評価 ※100 点満点の点数をどのように付けるのかを記載ください。（小テストの回数や配点等)	(1)他者評価(個人課題/2 回/30 点、グループ課題/3 回/45 点)　75 点 (2)自己ポートフォリオ(自己評価)/4 回　25 点 計 100 点	
事前事後学習の内容	【事前学習】地域課題・テーマに関する調査、参考事例の確認 【事後学習】ポートフォリオの記録、学びの振り返り、レポート作成	
履修上の注意	・授業の詳細な内容は、各コースの LMS・ガイダンス等で説明するので、確認の上受講をしてください。 ・グループワークが中心となる。出席と積極的な関与が求められる。 ・授業外での学びが求められる。 ・チームとしての連携や協同、コミュニケーション、役割等が重要となる。	
教科書	なし	
参考書	必要に応じて、情報提供を行う。	